

# 南会津・高八卦山

小沼 充範

- 山行年月日:2022年10月14日
- メンバー:小沼充範
- コースタイム:沼山峠 7:45～小淵沢田代 9:10～1912m ピーク 9:40～11:10 高八卦山頂 11:50～1912m ピーク 13:45～小淵沢田代 14:15～沼山峠 15:50

高八卦山は、桧枝岐村南部を流れる実川上流の赤安沢左岸にあるピナクルである。この山に関する記録がないので、気温が低く葉が落ち始める時期を選んで登ることにした。

御池手前のブナ平は、紅葉が盛りでもきれいである。御池に車を止め、7時発のバスに乗り沼山峠へむかう。沼山峠からの最終バスが17時であることを確認し、7時45分出発する。雨あがり雲が広がり、濡れた木道は滑りやすい。8時20分、黄色の草紅葉が広がる大江湿原に到着する。尾瀬沼方面へむかう登山者は多いが、小淵沢田代方面へ行く登山者は私と監視員だけである。

針葉樹の森を過ぎると、9時10分、静かな湿原の広がる小淵沢田代である。黒岩山方面の縦走路をたどると奥只見ダムから延びる送電線の下に着く。送電線の点検道を北へ登って行くと9時40分、1912mのピークである。高八卦山へ延びる尾根に上がるため何処から藪の中へ入ったらよいのか、場所を探しながら点検道を下る。

10時10分、標高1800m付近より点検道を離れ濃密な根曲り竹の藪に突入する。昨夜の雨で藪が濡れているので雨具を着る。針葉樹林の中に入ると根曲り竹の藪が少し薄くなる。ナビを持っていないので地形図とコンパス、周囲の景色を確認しながら緩やかな尾根を下る。木々の間より、長須ヶ玉山から孫兵衛山にかけての稜線が見える。今日は視界がきくから良いが、ガスがかかっていたら歩きにくい尾根である。

北東に高八卦山の特徴あるピナクルが見えるようになる。赤安沢側へ下りすぎたので北側ヘルートを修正する。濃密な根曲り竹の藪こぎとなり、このルートで一番藪がひどい場所である。高八卦山手前の鞍部に着くと藪が薄くなる。高八卦山への登りは下草のうすいコメツガ、ヒノキの林となる。

11時10分、三角点のない高八卦山の頂上に到着する。山頂に赤テープのマーキングを確認する。御神木のようなヒノキの生える山頂であり、神聖な場所に思われた。11時50分、下山開始。帰路は往路に戻る。標高1700mを過ぎると木に付けられた古いマーキングとかすかな踏跡を見つけ、踏跡をたどる。木々の間から赤安山が見え、中腹の広葉樹の紅葉がきれいである。踏跡を忠実にたどり、藪を掻き分けると、13時15分、鉄塔の側にとびだすことができた。今朝、藪へ突入した場所の少し上の所である。

送電の下は刈り払いされ笹藪となっており展望が良く、遠くに志津倉山を眺めることができる。14時15分、小沢沢田代で休憩する。大江湿原から沼山峠への道も、夕方になると人数も少なくなり、静かな木道歩きとなる。15時50分、沼山峠に到着し、16時30分発の御池行きのバスに乗る。地味な山頂に登ることができ満足した思いでバスに揺られるのは気持ちが良い。

高八卦山は、近くに尾瀬沼という大きな観光スポットがあるため人目につくこともなく立派なヒノキがある静かな山でした。



高八卦山の手前から見る赤安山



高八卦山山頂



高八卦山山頂周辺の樹林帯